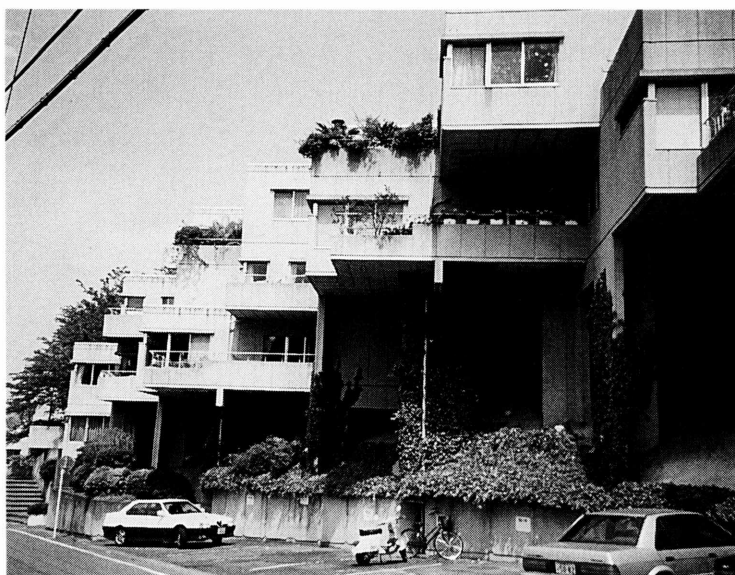


BELCA賞 ロングライフ・ビルディング部門 表彰

建物名称 東急ドエル桜台コートビレジ
 所在地 神奈川県横浜市緑区
 建物用途 住宅専用
 竣工 1970年8月
 所有者 桜台コートビレジ管理組合
 設計者 内井昭蔵建築設計事務所
 施工者 東急建設株式会社
 維持管理者 株式会社 東急コミュニティー



審査評

桜台コートビレジは、昭和45年に内井昭蔵の設計、東急建設の開発によって建設された傾斜地を利用した集合住宅である。1960年代の後半から1970年代は、公的集合住宅はニュータウンに、民間はマンションに定型化した時代であったが、一方、建築家によって集合住宅の新しい提案が多くなされた時代でもあった。コーポラティブ住宅のはしりといわれる山下和正の千駄ヶ谷の住宅、商業スペースを含んだ都市的空間を生んだ横総設計の代官山集合住宅、工業技術を表現した大高正人の広島基町の高層住宅など数多くあげることができる。その中でもこの桜台コートビレジは、建築のつくり出す人工的な路地空間に暮らしの豊かさを表現している。擁壁をかね、設備に配管スペースと一体となった路地的通路に空間を雁行させて取付け、それによって生じる多様な空間がヒューマンスケールとあいまって住まいらしい豊かな空間をつくり出している。昭和45年に発表されたときは集合住宅の一つの方向を示すものとして衝撃的でした。平成4年に訪ねた住居は20年余の年を経て、住み着いた人間のこの集合住宅に対する愛情がそここの花や樹木に見られた。開発当初からの住み手たちの組織は勿論いまも健在で、またあまり入居者に変動がないことも設計の優秀さである。その一つは平面計画にある。8畳を単位とした空間ユニットはライフサイクルに耐えうる最小の単位であり、居間に対する和室の扱いやアウトドアリビングとなり得るテラス、台所や浴室につながるサービスヤード的テラスなど、暮らしの基本を備えている。さらに外部空間としての建築は明らかに地域への良い影響を与えている。建設当時の写真を見ると周りは殆ど雑木林と原っぱであったが、現在立て込んだ町並みのなかにこの建物の形態の影響が見られ、地域開発に対する形態的役割を果たしている。始め美しく仕上がった打ち放しのコンクリートの壁は塗装が施されていたが、建築によってつくり出された空間は今も美しかった。

生産資本力のない住宅を良く維持することは極めて難しい。その意味でもこの建築は、住む人の建物に対する愛情と組織運営の見識と、ディベロッパーの誠実さによって維持されている。